

室津海駅

関札
江戸時代

近世 湊まち室の賑わい



御大名様御用控帳 高島家文書 文化11(1814)年より

室津絵図
江戸時代

2023年

10.7(土) ▶ 11.26(日)

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(ただし、10月9日は開館)、10月10日・11日、11月7日・24日

入館料 高校生以上200円/小中学生100円

※ひょうごっ子ココロンカード提示で無料。11月5日・11日・12日は
関西文化の日につき無料。



室津の革文庫 江戸時代

関連イベント

① 記念講演会

日時: 10月22日(日) 14:00～15:30

講師: 宇那木隆司氏(姫路市教育委員会文化財担当)

演題: 播磨国主池田家と湊

定員: 30名(先着順)

② 展示解説

日時: 10月29日(日) 14:00～15:00

講師: 柏山泰訓氏(室津海駅館・室津民俗館専門委員会委員長)

定員: 20名(先着順)

③ 室の湊まちあるき

日時: 11月5日(日) 13:30～15:30

ガイド: 柏山泰訓氏

定員: 20名(先着順)

※参加費: 無料(①②は入館料が必要)

※申込方法: 事前に窓口、電話、電子申請で申し込み



写真の資料はすべてたつの市教育委員会蔵

申込・
問い合わせ先

たつの市立室津海駅館(たつの市御津町室津457)
TEL&FAX 079-324-0595

主催
企画

たつの市教育委員会
室津海駅館・室津民俗館専門委員会



対州道中絵巻 対馬部分 文化8(1811)年
龍野歴史文化資料館蔵



尼崎から姫路海道絵巻 高砂部分
享保10(1725)年 八千荘コレクション

—「室津千軒」と呼ばれた港—

海に囲まれた島国・日本にとって海は道でした。日本各地は海を通してつながっていました。このことを端的に示しているのが「津々浦々」という言葉です。各地を船でまわるので廻船という言葉も生まれました。その廻船が寄港するのが港です。港としての第一の条件は風が防げることです。避難港としての始まりから、廻船の出入により、港町を形成していきます。港町は、城下町のように政治的な町ではなく、経済活動がその基盤になっています。つまり、商人の町ともいえます。

廻船活動が盛んになるのは江戸時代です。その要因として、船舶技術の向上、国内経済の発展、社寺参詣や旅による人の移動などがあげられます。それに伴い、古湊に加えて、各地に新しい港町も出現しました。

瀬戸内航路の古湊・室津も江戸時代に最盛期をむかえました。姫路藩の海の拠点として、廻船の出入はもちろん、参勤交代大名、朝鮮通信使、琉球使節、オランダ人の寄港がありました。町には、廻船問屋とともに、船客への慰労や娯楽を提供する施設や土産物があり、その賑わいは「室津千軒」と呼ばれました。

本展では、その港町室津の賑わいの様子をさまざまな資料によって紹介します。日本の歴史における港町の実態と役割を知る一助になれば幸いです。



室の泊図絵馬 部分 享保12(1727)年正月奉納、
安永3(1774)年修復 賀茂神社蔵



朝鮮通信使室津湊御船備図屏風
江戸時代 個人蔵



山海見立相撲 播磨室の津 江戸時代 個人蔵